第11分科会　環　　境

研究課題

自然環境を大切にする心と実践力を育てる環境教育と校長の在り方

Ⅰ　趣　　旨

今日の世界的な規模で拡大している様々な環境問題や環境への負荷は，地域の環境や地球環境に大きな影響を及ぼしている。豊かな自然環境を守り，私たちの子孫に引き継いでいくためには，エネルギーの効率的な利用など，環境への負荷が少なく持続可能な社会を構築することが大切である。環境問題は現在に生きる私たち大人，そして，子どもたちが生涯にわたって主体的に取り組まなければならない大きな課題であることをしっかりと認識し，子どもの発達段階に合わせて，持続可能な社会を作る人間と環境の関わりについて，地球的視野で考えさせることが大切である。

そのためには，子どもが体験活動などを通して身近な環境や環境問題に関心をもち，人間と環境の関わりについて理解を深め，正しい知識や能力を身に付け，身近なところから環境問題の解決に向けた具体的な行動をとり，積極的に取り組んでいく子どもを育成することが必要である。

自然環境を大切にする心と環境保全のため，主体的に行動する子どもを育む校長の役割や指導性を，学校経営の視点から明らかにすることが本分科会の趣旨である。

Ⅱ　研究発表及び協議

1　研究発表

「エネルギー・環境教育の推進と校長の関わり」
渡島地区　松前町立松城小学校　福原　　至

(1)　研究のねらい

校長の在り方について，次の二つの視点から検証する。

①　「環境教育の推進と教育課程などの学校の指導体制づくりにおける校長の果たすべき役割と指導性」

②　「体験活動など環境教育の実践的活動の充実に果たすべき校長の役割と指導性」

(2)　研究の内容

①　調査研究

○エネルギー教育の指導に関する調査分析

・エネルギー教育への校長の意識や考え方

・校長の指導資料についての考え方やリーダーシップ

・エネルギー教育の実践と校長の果たすべき役割

②　経営研究

○エネルギー教育に関する校長の役割や指導性

・エネルギー教育に関する指導資料作成など

③　実践研究

○指導資料を活用したエネルギー教育の推進

・指導資料の活用，実践例の紹介など

(3)　年次計画

①　1年次（平成24年度）

○実態調査：実態把握と課題解明，実践事例の収集と紹介

○指導資料の作成

②　2年次（平成25年度）

○指導資料の配付（ＨＰ掲載），活用

○活用事例の収集・紹介

○全道小研・管内研究大会での提言

③　平成26年度以降

○各校にて実践の充実・発展

(4)　研究の概要

①調査研究：実態把握と課題解明

○各校長は，環境教育の内容として，エネルギー問題を今日的な課題として高く意識している。

○取り扱う教科・領域については，総合的な学習の時間，社会科，理科の順となっており，家庭科への意識がやや低い。また，第５学年あたりから取り扱おうとする考えが多い。

○エネルギー教育の内容については，「環境破壊・汚染」「再生可能エネルギー」「エネルギー資源の枯渇」「発電のしくみ」「原子力と放射線」の順となっている。「原子力や放射線」については，事故後の影響の大きさと世相の流れをどう受け止めるべきか，また，学校としてどのように指導するべきか，悩んでいるとも分析できる。

○指導資料の有無については，「ない」「探している」が８割になった。全国的なレベルでの資料はあるものの，地域の実態に即した資料を必要としている。

○資料の作成については，「道・道教委」が一番多く，

次いで「国・文科省」「市町村・市町村教委」となり，行政機関が作成することを求めている。
○発電所の見学状況については，約８割の学校では，教職員も児童も見学していないことが分かった。
○原子力発電や放射能に関する授業の有無については，「ある」と「無い」がほぼ同数である。
○校長の関わりについては，エネルギー教育の推進に対する意欲は見られるが，資料の開発までには至っていない。また，地域の実態に即した取組や学習機会の設定などに，校長の指導性が求められている。

②経営研究：指導資料の作成と効果的な活用
○エネルギー教育推進の必要性から，渡島小中校長会研修部で「エネルギー教育の指導資料」を作成した。
○内容は，「資源の枯渇」「環境破壊・汚染」「発電のしくみ」「原子力と放射能」「節電」とし14ページにまとめ，ＰＤＦファイルでメール配信し，渡島教育研究所のホームページから閲覧できるようにした。
○「指導資料」を作成することにより，校長自らが資料を活用することや教職員の実践に生かせるようにした。

③実践研究：指導資料の活用と実践例
○資料は，小学校低学年からでも使用できるように，全ての漢字にふりがなを付けた。
○資料を活用した松前町立松城小学校６年生理科の授業，教職員の授業実践と校長の説話とのコラボレーションによる八雲町立泊川小学校の実践などの事例がある。
○エネルギー教育に意欲的に取り組み実践しようとする教師を育てるとともに，子どもたちにエネルギー・環境問題や省エネルギー・省資源に対する関心を高め，基礎的知識や実践力を身に付けさせることができた。

(5) 成果と課題

① 成果
○エネルギー教育について調査研究を行い，校長の意識や考え方を具体的に把握できた。
○渡島小中学校長会として指導資料を作成し，各学校における実践の意欲化を図ることができた。
○全道の小学校長がエネルギー教育に取り組む一つの指針を示すことができた。

② 課題
○小学校として実践を進めてきているが，本来，エネルギー教育は小中学校が連携して進めることが望ましく，今後，取組を拡大させる必要がある。
○エネルギー教育の内容が多岐にわたる中で，内容をかなり絞った調査研究・経営研究・実践研究となっていることから，今後の社会の動向を見定めて，内容を充実させていく必要がある。

2 研究協議

(1) 資料と教育課程の関連については，まず教師に働きかけ，理科の時間などでの特設授業を通して環境教育を進め，それを自校のスタンダードとし，充実のステップとする。
(2) 教科教育とエネルギー・環境教育の関わりとして，生活科や社会科，理科，家庭科などでの取組が，教育課程の中に位置付けられるのではないか。
(3) 小中の連携として，中学校の理科に「放射線」があり，それと関連した活動ができそうである。小学校の実践を踏まえて中学校で何ができるか，研究を進める必要がある。
(4) 環境教育の全体計画の作成が課題としてあげられる。環境教育として扱うことができる内容を整理し，まとめることが必要である。

3 グループ協議（８グループ）

A 全体計画を作成するに当たり，総合的な学習の時間や生活科，社会科，理科を含めて考えなければならないし，地域を学ぶ研修も進めなければならない。また，校長として，小・小，小・中の連携を図ることも必要である。
B 環境教育の取組として，ふるさと学習の重要性が考えられる。また「なぜ分別するのか」「なぜ節電するのか」など，日常的な活動をもう一度確認する必要性もある。
C 自然や資源を大切にする活動など「今行っていること」を整理し，子どもたちが身近な環境について意識していけるようにする。
D 各学校で環境教育が実践されており，その充実には教育課程に位置付けることが第一である。そのためには校長がリーダーシップ・指導性を発揮することが大切である。
E 原子力発電について何をどう教えるかの議論が必要である。また，ふるさと教育と環境教育の一本化を図ることや節電などでの取組の成果が見える工夫も必要である。
F 教科や生活の中で関連するものを洗い出して整理し，地域の特性を生かして教育課程に位置付けていく。また，「何のためにやっているのか」目的の明確化が大切である。
G 自然を利用して環境教育を推進し，専門家を活用し自然環境について関心をもたせ環境を守っていく意識を育てる。
どの学校においても取り組んでいける教育課程を構成する。
H 環境教育については，子どもや職員のモチベーションを向上させる取組を進める必要がある。また，学校でできること・できないことの見極めも重要である。

Ⅲ まとめ

学校においては，児童生徒に持続可能な社会を作るための人間と環境の関わりについての理解を深め，自然環境を大切にする心と環境保全のために，主体的に行動する実践力を育む環境教育を推進することが大切である。そのためには，各教科・領域との関連を図りながら，教育課程の中に環境教育をしっかりと位置付けて進めていくことが必要である。

研究協議では，多様な体験活動例や校内体制の整備の仕方，小中連携を主とした異校種間や家庭・地域・関係機関との連携の進め方などについて具体的な協議が行われ，校長の果たすべき役割と指導性について理解を深めることができた。

1　研究の視点1に関わって

(1)　各教科・領域との関連を図った教育課程の在り方に関して，総合的な学習の時間を中心に各教科・道徳・特別活動などとどう関連を図っているか，さらに，教育課程への位置付けや全体計画をどのようにしているかなどについて，実践をもとにしながら交流を深めることができた。

(2)　教職員の指導体制づくりに関しては，校長がリーダーシップを発揮し，教職員に環境教育の重要性を十分に認識させるとともに，児童生徒の環境意識の育成をはじめ，保護者・地域に対してもその必要性について積極的に発信しながら，関係機関との連携を密にした学校体制づくりに取り組んでいる実践などが報告された。

2　研究の視点2に関わって

(1)　体験的な活動，実践的な活動を推進することに関して，それぞれの地域の特性を生かした環境の保全や改善に関する活動について交流を深めることができた。また，活動を進めるに当たっての校長の関わり方やなすべきことなどについても交流しながら理解を深めることができた。

(2)　家庭・地域社会との連携を図った体験的・実践的活動の推進に関して，校長自身が認識を深めるとともに地域の窓口としてコーディネート力を発揮し，特色ある教育活動の推進を図ることや家庭・地域社会・関係機関との密なる連携の重要性について再確認を図ることができた。

3　研究発表及び研究協議の成果と課題

【成果】

(1)　エネルギー・環境教育に関する調査や研究により，管内的な傾向や課題が明らかになるとともに，その必要性についての共通理解が図られ，エネルギー・環境教育に取り組む一つの指針となった。

(2)　エネルギー・環境教育を教育課程の中に位置付け，総合的な学習の時間を中心に各教科・領域で活用できる指導資料の作成により，実践の意欲化を図ることができた。

(3)　教職員が地域の実態に即した指導資料を活用するなど，地域の特色を生かしたエネルギー・環境教育を積極的に推進するよう働きかけることにより，実践意欲が喚起され指導体制が向上した。

(4)　地域の自然や身近な環境を効果的に活用した体験的な活動や指導資料を活用した学習活動を通して，児童生徒のエネルギー・環境問題への関心が高まり，環境保全やよりよい環境づくりに対する意識や実践的態度が身に付いてきている。

【課題】

(1)　児童生徒のエネルギー環境や省エネルギー，省資源に対する関心を高め，基礎的知識や実践的態度を育てるために，地域の特色を生かした多様な体験的活動の工夫を図ることや地域の実態に即した指導資料の内容，活用方法の一層の改善・充実を図ることが必要である。

(2)　エネルギー・環境教育を教育課程へしっかりと位置付け，各教科・領域との関連を図った体系的な指導計画あるいは全体計画を整備するよう，学校としての指導体制を整えていくことが必要である。

(3)　エネルギー・環境教育における学びの連続性や継続性および実践の深化を図るため，小中連携を更に進めるとともに，より一層，家庭や地域・関係機関との連携を推進することが重要である。

「第11分科会に参加して」

八雲町立山崎小学校　**小　栗　陽　子**

平成25年度の北海道小学校長会研究大会が，私たちの地元である渡島・北斗の地で開催され，参加できましたことを，大変光栄に思っています。そして，私が参加した第11分科会「環境」は，渡島の担当になっており，渡島の小学校長会で継続研究してきた分野でしたので，少しでもお役に立てればと思いながら参加しました。

第11分科会の研究課題「自然環境を大切にする心と実践力を育てる環境教育と校長の在り方」を受けて，松前町立松城小学校の福原　至校長先生より，「エネルギー・環境教育の推進と校長の関わり」と題した研究発表がありました。エネルギー教育の指導に関する調査分析，校長の役割や指導性，指導資料を活用したエネルギー教育の推進，実践事例として松前町立松城小学校の紹介等があり，大変参考になる発表でした。エネルギー問題は資源の乏しいわが国にとって重要な課題であるという意識はあるものの，なかなか取り組めないでいるのが現状でした。発表後に行われましたグループ協議では，全道各地から参加した校長先生方と率直な意見交換ができ，校長としての心構えや果たすべき役割について改めて自覚した次第です。

ありがとうございました。